

## 「最新 恐竜学～恐竜研究の最前線を見てみよう」

早稲田大学国際教養学部

平山 廉 教授

1956 年生まれ。慶應義塾大学経済学部卒、京都大学大学院後期博士課程修了。帝京科学技術大学、帝京平成大学を経て、早稲田大学に。2006 年より現職。専門は化石爬虫類、とくにカメ類の系統進化や機能形態学。理学博士。主な著書に『最新恐竜学』（平凡社新書）、『カメのきた道』（NHKブックス）などがある。

大きくて、強くて、陸上世界を支配していた恐竜。しかし、いまから 6500 万年前に突然、絶滅してしまった……。そんなミステリアスなところが恐竜の魅力なのかもしれません。本講義では、恐竜の「何がわかり」「何が謎のままなのか」など、恐竜研究の最前線を解説します。とくに注目してもらいたいのは、私たちの常識とは異なる研究や発見が近年、多数なされていることです。たとえば、「恐竜の絶滅は巨大隕石によるものだ」という説があります。最新の研究では、そうとは言い切れないことがわかってきたそうです。講義を聞いたあと誰かに話をしたくなる そんな内容です。

- 第 1 章 恐竜の発見と起源
- 第 2 章 恐竜の出現と繁栄
- 第 3 章 巨大恐竜の生態を考える
- 第 4 章 恐竜絶滅の謎と羽毛恐竜

## **第1章 恐竜の発見と起源**

第1章では、恐竜学の基礎を勉強しましょう。まず、恐竜は中生代という時代に生き、いまから6500万年前に絶滅しました。「手足が胴体から真っ直ぐ下に伸びている」「腰に重心がある」「硬い卵殻をもつ」などの特長を持ちます。最初に発見したのはイギリス人の夫妻。19世紀のことで、骨を見つけたのは夫人だ、といわれます。その後、アメリカなどに恐竜研究は広がっていきました。

## **第2章 恐竜の出現と繁栄**

恐竜は爬虫類から進化しました。では、どのように進化していったのでしょうか。最初の恐竜が出現したのは、いまから2億2700万年前のことだとされます。その後、いくつもの種類に分かれていきますが、大きくは「竜盤目」と「鳥盤目」に分類できます。有名なティラノサウルスは「竜盤目の獣脚類」。ちなみに、いままでに約1000種類の恐竜が見つかっているそうです。

## **第3章 巨大恐竜の生態を考える**

第2章で紹介した「竜盤目」のなかに「竜脚類」というグループがあります。いわゆる首長竜と呼ばれる恐竜です。以前は、首が長いのはキリンなどと同じで高い場所の草を食べるため、と想像されてきました。しかし実際は、首は上には上がらない。従来の考えでは説明がつかないことがわかってきました。このように謎の多い竜脚類。その生態に迫ります。

## **第4章 恐竜絶滅の謎と羽毛恐竜**

最後の章では恐竜最大の謎、「なぜ、恐竜は絶滅したのか」を取り上げます。巨大な隕石が地球に衝突したことは事実で、それによって多くの恐竜が死に絶えました。しかし、どうもそれだけが原因ではないことが最近の研究でわかってきたのです。さらに、この章では「羽毛恐竜」の謎にも迫ります。「羽毛恐竜」の研究が進めば、私たちの恐竜観が変わるかもしれない。たとえば、羽根を生やし鳥のような姿をした肉食恐竜がいたかもしれない、といわれます。